

令和3年度 事業報告

我が国は、人口減少と少子高齢化の急速な進展により、労働力人口の減少が大いに懸念されていますが、現役世代の下支えや人手不足分野での労働力確保に貢献するシルバー人材センターに対して、国や地域社会の期待は一層大きくなっております。

一方、令和3年4月からの「改正高齢者雇用安定法」の施行により、70歳までの就業機会の確保を企業の努力義務とされましたが、このことはセンターの会員確保の面で、今後とも大きな影響を受けるものと思われまます。

また、令和3年度も前年度に続き、新型コロナウイルス感染症の拡大という事態に翻弄された1年で、当センターの事業運営も甚大な影響を受けました。

定時総会や各種会議・会合等は中止もしくは規模を縮小しての開催を余儀なくされ、特に、会員の皆さんと接する機会である「地区ブロック研修会」や、普及啓発事業としての「チャリティーバザー」や「会員交流会」も2年続けて中止せざるを得ないという、残念な結果となりました。

さらに、入会説明会や企業・事業所等への訪問活動等も様々な制約を受け、新規会員の獲得や新たな就業機会の確保などにも、大きな影響を受けた1年でありました。

感染症全体の1日も早い終息を期待するところではありますが、シルバー人材センターを取り巻く環境は、当面は厳しい状況が続くことが懸念される所です。

このような状況の中、当センターの事業実績は、その大宗をなす請負・委任事業はコロナの影響が顕著で、対前年度比5.0%、1,812万円減の3億4,435万円という残念な結果となりました。

また、派遣事業についても、派遣の終了等が生じたことにより、対前年度比19.1%、471万円減の1,997万円となりました。

この結果、請負・委任・派遣事業の合計で、契約額は3億6,432万円（前年度：3億8,714万円）となり、対前年度比5.9%、2,283万円の減で、大幅に実績を落とす結果となりました。

令和3年度は、補助金の大幅な減額等により赤字予算の編成を余儀なくされ、効率的な予算執行等により黒字化を目指しましたが、平成24年度以来9年ぶりとなる198万円の赤字決算という結果になりました。

なお、新年度も、市・国の補助金は大幅な減額となることから、非常に厳しい事業運営を強いられることとなりますが、事業実績の挽回を図るとともに、就労やボランティア等を通じて地域社会への貢献を果たし、シルバーの存在意義を

高めていくため、なお一層の努力が必要であると考えます。

また、会員数についても、長崎県シルバー人材センター連合会が実施する「高齢者活躍人材確保育成事業」と連携して、周知・広報活動、就業体験、技能講習等に積極的に取り組み、新規会員の確保に努めてまいりましたが、入会説明会の開催の制約やコロナ禍による自粛ムード等もあり、入会者より退会者が大幅に上回り、前年度末より39名減の868名という厳しい結果となりました。

今後も、健全経営の下、シルバー事業を推進してまいりますので、会員、そして役職員皆様のご理解とご協力をお願いします。

項目 \ 年度	① 令和2年度	② 令和3年度	②-① 前年度比
会員数（人）	907	868	△39
受注延件数（件）	5,654	5,378	△276
契約金額（円）	362,466,202	344,346,997	△18,119,205
就業実人員（人）	716	664	△52
就業延人員（人日）	69,322	66,515	△2,807
就業率（％）	78.9	76.5	△2.4
単年度収支（円）	3,685,131	△1,981,576	△5,666,707

※ 「受注延件数」から「就業率」までの各項目は、請負・委任について記載